

ズ、對陣取テ有シガ短氣成義就山○ 鳥衆、嶽山ニテ評定シケルハ、イッ迄加様ニ兵糧詰ニセラレ、冥ト有ランヨリ、弘川ニ亂入有無ノ合戰ニ運命ヲ見ルベシトテ、○ 下

〔相州兵亂記四〕景虎小田原へ寄來事

景虎○ 上天性健ナル若モノニテ、血氣盛ニシテ腹ヲ立忿ルトキハ、炎ノ中ニモ飛入ラント思ヒ、鬼ナリトモツカミヒシガント云短氣ノ勇者ナレドモ、小時過ヌレバ其勇サメ、萬事思慮スルヤウナル風體アリト聞ク、○ 下

〔三壺聞書七〕瑞龍院様の御尊之事

利長公御へや住より御奉公申上つる人々より合物がたりいたしけるは、乍禪此殿様御心も短慮。におわしまし物毎被仰出御意之下より、埒明ざれば、相應し奉らず、○ 下

〔常憲院殿御實紀附録中〕公○ 德川には心すみやかなる者を好ませたまひしかば、小性近習など、常に御側に侍座したる時、席上に虫など出る事あれば、それをとりますと仰らるゝに、たとひ毒虫にても、速に捉へざれば、御けしきあしかりしとか、何事も御心急におはしけれども、また事によりては、きはめて寛裕の御徳度もおはしけるとぞ、

〔雲萍雜志四〕むかしある國の守は短慮いはんかたなく、獵に出でたる折からに、暴風砂を吹きて、口に入れどもうがひだにせずして、食物に砂ありとて、給仕の輩をしりぞけなどし、只諂ひ媚ぬる族を容れて、忠ある臣下を損すること數多なりしが、ある時いかにして心やつかざりけん、鯉のあつ物の中に、釣ばりのありけるを取り出だして、膳の上に載せおき申されけるは、かゝる鹿略の調理いたす者は、みないとまを遣すべし、庖丁の者には、切腹申しつくべきなりとありければ、料理せしものは、切られにけりとぞ、飲食のために、人を失ふこと、心あるべきことなるべし、梁の昭明太子は、飯の中に蠅の死したるがありしを、箸もて取り出で、給仕の輩に見せじと、膳部の